

JSウォール堰堤工法

【更新承認日】 令和3年6月29日

【取得会社】 JFE建材株式会社

【技術詳細に関するURL】 <https://www.jfe-kenzai.co.jp/>

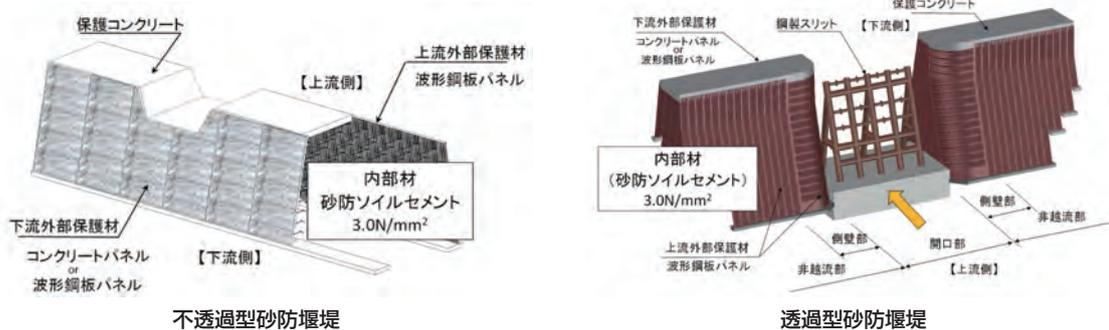
技術の概要

JSウォール堰堤工法は砂防ソイルセメント工法における高い施工性、経済性のメリットを最大限に活かし、内部材の砂防ソイルセメントを補強する外部保護材と複合させた砂防堰堤工法です。

外部保護材の特徴は、

- ① 型枠機能、耐衝撃性、景観性に優れています。
- ② 上下・左右を連結し壁面同士の隙間が発生しない構造です。
- ③ 施工時荷重に対しても自立構造が確保できます。

今回の更新では、これまでの施工実績を踏まえ、流動タイプに関して設計・施工マニュアルを最新の内容に更新しました。特に設計者や施工者の皆様がより利用しやすいように、施工計画、外部保護材の施工方法について記述を充実させました。



外部保護材別の施工事例



コンクリートパネル



波形鋼板パネル(無塗装)



波形鋼板パネル(めっき)

技術のポイント

- ・砂防ソイルセメントの転圧タイプ、流動タイプの両方に適用できる外部保護材です。
- ・土石流荷重が作用した場合、外部保護材とその継手部の構造により、内部材の露出防止ができます。
- ・非越流部の水通し側を曲面形状の外部保護材とすることで、非越流部に使用するコンクリート量の削減が可能で、施工期間の短縮・施工コストの削減が図れます。

流動タイプの施工事例

流動タイプの施工方法は特殊な機械設備や技術を必要としません。現地発生土とセメントの混合は転圧タイプと同様バックホウで行うことができ、打設に関してはコンクリート打設に近いものとなります。現地の粗石(φ500mm以下)を活用できることや、狭い施工区間において施工性が向上します。



内部材(粗石)の投入状況



内部材の均し状況



バイブレータによる締固め状況